

検査情報月報



2015
12月

横浜市衛生研究所

平成27年12月号 目次

【トピックス】

海水浴場水質調査	1
----------------	---

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 11月	3
--------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	7
---------------------	---

海水浴場水質調査



金沢区の「海の公園」は、市民に親しまれている横浜市で唯一の海水浴場です。5月（海水浴場開設前）及び7月（開設中）に環境省の依頼により検査を行い、調査結果を報告しました。

海水浴場水の採水は、健康福祉局生活衛生課が金沢福祉保健センター、環境創造局および公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

1 対象施設及び試料

(1) 対象施設：「海の公園」海水浴場

(2) 採水日：平成27年5月11日・12日及び7月6日・7日・9日・13日・14日・15日

(3) 試料：「海の公園」沖3地点で、1日に2回（午前・午後）採水した海水。なお、7月9日は午前のみ採水。8日間で計45試料。

2 検査項目

水質評価項目および参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数、 化学的酸素要求量(COD)	腸管出血性大腸菌O157、 一般細菌数、pH

3 検査方法

環境省通知で定められた方法で実施しました。

4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月11日・12日の2日分12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」に区分したところ、今年度5月の判定区分は「可(水質B)」でした。7月は降雨が多く、ふん便性大腸菌群数が1,000個/100mLを超える日が続きました。その後天候が回復し、環境創造局が7月21日・22日に水質の改善を確認しました。

なお、昨年度は5月・7月ともに「可(水質B)」でした。

表2 「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月					
	11日	12日	6日	7日	9日	13日	14日	15日
油膜の有無	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	2未満	2未満~8	440~ 5,200	500~ 5,700	400~ 13,000	140~ 1,700	220~ 11,000	50~130
COD(mg/L)	2.6~3.8	3.3~4.1	3.1~4.5	4.0~5.3	3.9~4.0	3.5~4.6	2.1~3.1	2.0~3.5
腸管出血性大腸菌O157 (/3,000mL)	不検出	—	不検出	—	—	—	不検出	—
一般細菌数 (cfu/mL)	1~3	1~4	840~ 2,600	380~ 4,900	170~ 6,400	21~ 1,200	20~ 1,600	11~180
pH	8.4~8.6	8.4~8.6	8.1~8.2	8.3~8.4	8.1~8.3	8.2~8.5	8.0~8.1	8.0~8.3

*1:「認められない」

表3 「海の公園」海水浴場の環境省への報告値および水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値	水浴場水質判定基準				
	5月					
水質判定区分	可 水質B	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無	無 *1	無 *1	無 *1	無 *2	無 *2	有 *3
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	0.5以上 1.0未満	0.5以上 1.0未満	0.5未満
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	2未満	2未満	100以下	400以下	1,000以下	1,000超
COD(mg/L)	3.5	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
腸管出血性大腸菌O157 (/3,000mL)	不検出	—	—	—	—	—
pH	8.4~8.6	—	—	—	—	—

*1:「認められない」、*2:「常時は認められない」、*3:「常時認められる」

【 理化学検査研究課 水質担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 11月

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎の報告が増加しており、今シーズンも市内からノロウイルスGⅡ.17型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

全数把握の対象

【11月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
腸管出血性大腸菌感染症	8件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件		

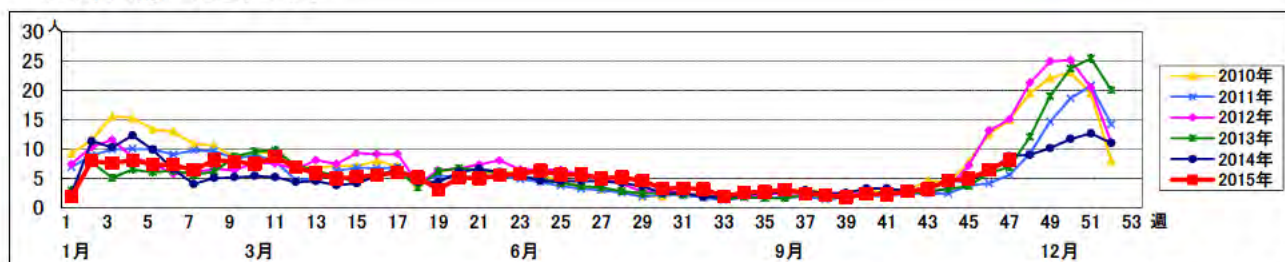
- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 海外での感染事例がありました。海外においても動物との接触や肉の摂取など、十分に気をつける必要があります。
- 3 **E型肝炎**: 1件の報告があり、原因は不明でした。国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食に関連しており、それらの喫食の際には十分加熱することが大切です。
- 4 **デング熱**: 1件の報告があり、海外渡航歴(インドネシア)がありました。
- 5 **レジオネラ症**: 肺炎型3件の報告がありましたが、感染経路等は現在調査中です。
- 6 **アメーバ赤痢**: 5件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触による感染、2件は国内での感染で感染経路不明、1件は中国での経口感染、1件は感染経路感染地域等不明でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 2件の報告がありましたが、院内集団感染等の報告はありませんでした。
- 8 **急性脳炎**: 1件の乳児の報告がありました。病原体検索中です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1件の80歳代の報告があり、感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者1件(国内での同性間性的接触による感染)、AIDS1件(感染経路感染地域等不明)の報告がありました。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 幼児1件、成人7件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が1回(詳細不明)有りましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 **水痘(入院例に限る)**: 成人の届出が2件あり、どちらも臨床診断例でした。
- 13 **梅毒**: 6件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候期1件)の報告があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触3件、同性間性的接触1件、性的接触(詳細不明)1件、感染経路感染地域等不明1件でした。

定点把握の対象

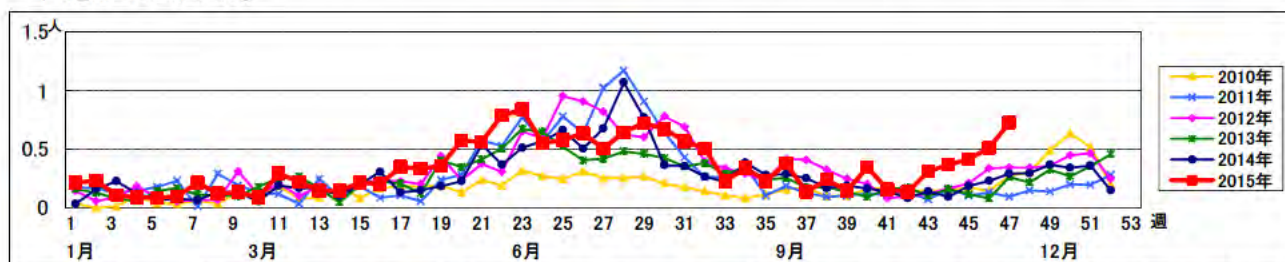
- 1 **感染性胃腸炎**: 第47週は市全体で定点あたり8.12と増加傾向です。区別では都筑区で既に20.50と警報発令基準値(定点あたり20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、いままでノロウイルスの主流のタイプであったGⅡ.4にかわり、GⅡ.17のノロウイルスの流行が危惧されていることから、厚生労働省が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは2015年1月頃から、いままで多く検出されていたGⅡ.4にかわり、GⅡ.17が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、GⅡ.17が検出されています。GⅡ.17はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されて

平成27年 週一月日対応表	
第44週	10月26日～11月 1日
第45週	11月 2日～11月 8日
第46週	11月 9日～11月15日
第47週	11月16日～11月22日

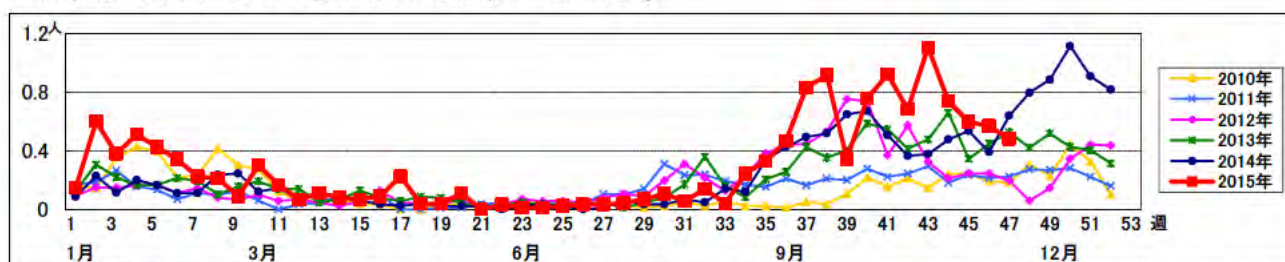
おり、注意が必要です。



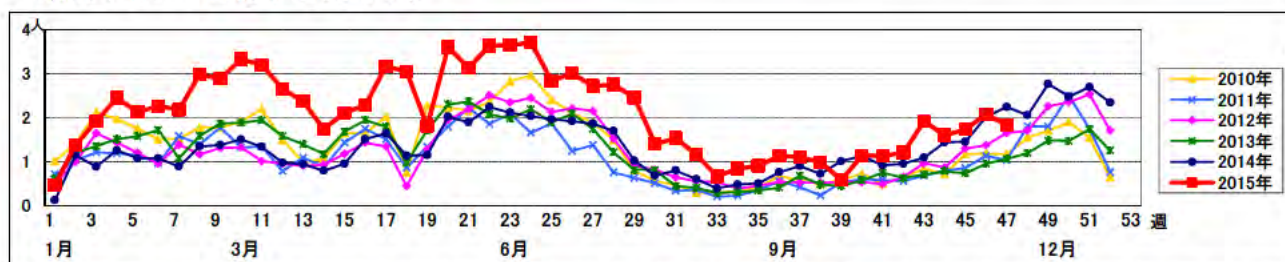
2 咽頭結膜熱:第47週は市全体で定点あたり0.73と増加傾向です。この時期では2010年以降最も報告が多くなっています。区別では磯子区で11.50と警報発令基準値(定点あたり3.00)を大きく上回っており、注意が必要です。



3 RSウイルス感染症:第47週は市全体で定点あたり0.48と、今年最も多かった第43週1.10より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第47週は市全体で定点あたり1.83と増加傾向です。例年年末にかけて増加するので注意が必要です。



5 インフルエンザ:第47週は市全体で定点あたり0.18と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。

6 性感染症:10月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が30件でした。性器ヘルペス感染症は男性が1件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が7件、女性が1件でした。

7 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第44週1.25、第45週1.25、第46週3.68、第47週1.50と、報告が多い状態が続いています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第45週~47週まで1件ずつ報告されています。細菌性髄膜炎が第45週に1件、第46週に1件報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報:10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、基幹定点9件、眼科定点2件でした。

12月10日現在、ウイルス分離11株と各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *
アデノ 2型		1			2
アデノ 3型					1
アデノ 4型		2			
アデノ NT	1	1			
インフルエンザ AH1pdm09型			5		
インフルエンザ AH3		1			
パラインフルエンザ 1型	1	1			
パラインフルエンザ 2型	1				
パラインフルエンザ 3型	1	4			
RS		3		2	
ライノ		1			
コクサッキー A2型	1				
コクサッキー A9型		1			
ヒトコロナ OC43型	2	1			
合計	7	13	5	2	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*:アデノ感染症を含む、NT:型未同定

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎は、基幹定点から5件、その他から18件で、赤痢菌(*S. sonnei*)が1件、腸管出血性大腸菌(O55:H+, O26:H21、O145:H-, O146:H-, O157:H7)が12件、サルモネラ(*S. Braenderup*、*S. Enteritidis*)が2件検出されました。腸管出血性大腸菌のうち2株(O157:H7)はニュージーランドへの渡航者から検出され、赤痢菌はアメリカ、イタリア、エジプト、インドへの渡航者から検出されました。

その他の感染症は小児科定点から7件、基幹定点から5件、その他から72件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2015年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1			2	4
腸管出血性大腸菌			12		1	77
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌					6	5
サルモネラ		2			60	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	0	2	6	2	26	22

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2015年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1				3		6
T4	2			7		
T6				1		
T12				2		
T28				2		3
T B3264				2		1
型別不能	2		1	20		4
B群溶血性レンサ球菌	1			1		2
G群溶血性レンサ球菌						5
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	40
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>			1			8
インフルエンザ菌						12
肺炎球菌		3	4	1	4	82
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌	2			2		1
結核菌			2			157
緑膿菌			53			53
百日咳					2	3
その他		2	2		16	44
不検出	0	0	9	8	2	52

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成27年11月)

平成27年11月の総アクセス数は、122,277件でした。主な内訳は、感染症情報センター79.7%、保健情報5.3%、食品衛生3.3%、検査情報月報2.2%、生活環境衛生2.1%、薬事0.5%でした。

(2) アクセス順位 (平成27年11月)

11月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年11月 アクセス順位

は、第1位が「エンテロウイルスについて」、第2位が「インフルエンザワクチンについて」、第3位が「生物化学兵器について」でした。

11月の総アクセス数は、前月に比べ15%減少しました。今月の1位は前月同様にエンテロウイルスによる感染症でした。発熱などに伴い、まひの症状が出る原因不明の症例が、国内で今年8月以降、子供で相次いで

報告されました。その患者の一部から「エンテロウイルスD68型」が検出されたことで、前月に引き続きアクセス数の増加に繋がったものと考えられます。エンテロウイルスD68型に感染し発症した場合、発熱や鼻汁、咳といった軽度なことから喘息様発作、呼吸困難等の重度の症状を伴う肺炎を含む様々な呼吸器疾患を呈します。また、3位の「生物化学兵器について」では、「イスラム国」による生物化学兵器を使ったテロ攻撃が、懸念されたとの報道を受けて、アクセス数の上昇に繋がったと思われます。

順位	タイトル	件数
1	エンテロウイルスについて	10,136
2	インフルエンザワクチンについて	6,790
3	生物化学兵器について	4,861
4	横浜市感染症情報センター	3,406
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,350
6	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	3,324
7	B群レンサ球菌 (GBS) 感染症について	2,993
8	チメロサルとワクチンについて	2,844
9	衛生研究所トップページ	2,735
10	EBウイルスと伝染性単核症について	2,612

データ提供: 市民局広報課

「エンテロウイルスについて」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/entero1.html>

「インフルエンザワクチンについて」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/influvaccine.html>

「生物化学兵器について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/hazard/bcw1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年11月）

平成27年11月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 平成27年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
日本脳炎のワクチン接種について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成27年11月）

平成27年11月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成27年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 4日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
11月 5日	ヒトアストロウイルス感染症について	掲載
11月 6日	マルタ共和国のこどもの定期予防接種について	更新
11月 9日	オーストラリアのこどもの定期予防接種について	更新
11月10日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成27年)【速報版】	更新
11月16日	英国のこどもの定期予防接種について	更新
11月18日	エストニアのこどもの定期予防接種について	更新
11月20日	横浜市人口動態統計資料(平成26年)	掲載
11月25日	中華人民共和国(香港特別行政区)のこどもの定期予防接種について	更新
11月26日	標準化死亡比(SMR)	更新
11月27日	台湾のこどもの定期予防接種について	更新

【 感染症・疫学情報課 】